

■片山哲 キリスト教的社会主義者。〈敗戦〉直後に社会党委員長として新憲法下初の首相になるも、短命に終る。

かたやまつ

国民之友始・1887＝ 和歌山県西牟婁郡田辺町で弁護士の子に生まれ、

帝国憲法発布1889＝ 2歳：  
クリスチャンの母の影響を受けて育つ。

日清戦争始・1894＝ 7歳：

白馬会・・・1896＝ 9歳：

Bushidou・・・1899＝12歳：水害で生地が流出したため、町内の別の地区に移住。

ピア国産化・1900＝13歳：田辺中学校に入学、

日露戦争終・1905＝18歳：

韓国反日暴動1907＝20歳：第三高等学校独法科在学中、来日した救世軍ブース大将の演説に感激、

アヲキ創刊・1908＝21歳：\_東京帝大法科大学独法科にすすみ、

\_大学内のキリスト教青年会の寮で鈴木文治らと交流するとともに、牧野英一教授の刑法理論に心服して、  
弁護士になることを決意、

明治天皇没・1912＝25歳：\_卒業とともに帰郷し、父のもとで修業、

大正政変・・・1913＝26歳：\_弁護士を開業。

第一次大戦始1914＝27歳：

ロシア革命・1917＝30歳：\_上京して、

本格政党内閣1918＝31歳：\_星島二郎らと簡易法律相談所を開き、貧困者の相談に応じるうち、

<ロシア革命><米騒動><原内閣成立>などの影響を受け、

大暴落・・・1920＝33歳：\_中央法律相談所と改称、{中央法律新報}を発刊して'法律の民衆化'をめざす。森戸辰男事件をはじめ、

原敬首相暗殺1921＝34歳：東京女子大学講師を兼務して、公娼制度の廃止や婦人参政権の必要性などを主張、

\_労働争議などの弁護に当たる。

関東大震災・1923＝36歳：

護憲三派圧勝1924＝37歳：\_政治研究会結成に参加。安部磯雄の影響を受けて非暴力の立場を堅持、

円本時代始・1926＝39歳：\_\*安部・吉野作造らと脱退後、東女大を辞めて社会民衆党の結成に活躍し、書記長に就任。

海軍軍縮条約1930＝43歳：\_\*第2回普通選挙で衆議院議員に当選(以後、当選10回)。

満州事変・・・1931＝44歳：

五一五事件・1932＝45歳：\_社会大衆党を結成し、中央執行委員・労働委員長となる。

日中戦争始・1937＝50歳：

大政翼賛会・1940＝53歳：\_反軍演説をした斎藤隆夫の除名に反対、安部磯雄らと欠席して党を除名され、新党結成も禁止される。

日米開戦・・・1941＝54歳：

・・・1942＝55歳：翼賛選挙に非推薦で立候補するも落選。

敗戦・・・1945＝58歳：\_戦後、日本社会党結成に参加、書記長に就任。

新憲法公布・1946＝59歳：\_\*委員長となる。

新憲法施行・1947＝60歳：\_新憲法下初の総選挙で第一党となり、民主、国民協同両党と片山内閣を組織、最高裁判事の人選など新憲

法体制を確立、炭鉱国家管理法を制定、社会主義的政策をめざしたが、連立内閣のため不安定であり、

極東裁判決・1948＝61歳：\_平野農相問題や非社会主義的政策が党内左派の反対を受けて、総辞職、

三大事件・・・1949＝62歳：\_\*総選挙でも落選する。

朝鮮戦争始・1950＝63歳：日本禁酒同盟理事長。

独立回復・・・1951＝64歳：\_委員長を辞して、党最高顧問となる。

自衛隊発足・1954＝67歳：有田八郎らと憲法擁護連盟を結成して議長に就任、護憲運動を推進。

55年体制始・1955＝68歳：社会党統一後は、

国連加盟・・・1956＝69歳：社会福祉法人賛育病院理事長。

インスタマン・1958＝71歳：\_第一線から退き、

美智子妃・・・1959＝72歳：離党を決意、日中文化研究協会を設立して初代会長になり、

安保闘争・・・1960＝73歳：西尾末広らの民社党結党に従って、最高顧問となり、

タイタイ病始・1961＝74歳：それに伴って、憲法擁護新国民会議議長に転じる。

TV宇宙中継始1963＝76歳：選挙で落選し、ついに\_政界も引退して、

大学紛争始・1965＝78歳：民社党も離党した。

いざなぎ景気1966＝79歳：キリスト者世界連邦協議会会長となるなど、平和運動に努め、敬虔なクリスチャンとして知られた。

美濃部都知事1967＝80歳：「回顧と展望」。

震ヶ関ビル・1968＝81歳：

成田衝突・・・1978＝91歳：\_没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、